

| | |
|---------|--|
| 氏 名 | 杉 山 晃 一 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博乙第4413号 |
| 学位授与の日付 | 平成25年12月31日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) |
| 学位論文題目 | Current status of the treatment of microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis in Japan (日本における顕微鏡的多発血管炎と多発血管炎性肉芽腫症の現状) |
| 論文審査委員 | 教授 岩月 啓氏 教授 千堂 年昭 教授 那須 保友 |

学位論文内容の要旨

抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎の代表的疾患である顕微鏡的多発血管炎（MPA）と多発血管炎性肉芽腫症（GPA）は、厚生労働省より特定疾患に指定されている疾患である。今回我々は、2006年から2008年の期間に新規のMPAもしくはGPAと認定を受け臨床個人調査票が電子入力された症例のデータベースを用い、我が国の患者の特徴、治療実態を把握することを目的に研究を行った。まずMPAとGPAの患者背景の解析結果から、GPAよりMPAの患者が多いことやGPAにおける腎機能障害の頻度が低いことが本邦の特徴として示された。欧州リウマチ学会のガイドラインでは寛解導入において副腎皮質ステロイドに加えてシクロホスファミド（CY）の併用が推奨されているが、CYの併用治療の有無について検討した結果、高齢者や腎機能低下症例でCYの併用が避けられ、欧米と比して併用頻度が低い実態が明らかとなった。血漿交換は欧米で推奨されているように重症度に応じた選択が行われていた。

論文審査結果の要旨

本研究は、抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連炎の顕微鏡的多発血管炎（MPA）と多発血管炎性肉芽腫症（GPA）について、厚生労働省特定疾患の臨床調査個人票（2006年 - 2008年）1320症例のデータから、発症1年以内で、さらに、認定基準を満たす938例（MPA: 697例、GPA: 241例）について、臨床的解析を行ったものである。その結果、MPAはGPAに比べて発症年齢が高く、腎症状を高率（86.9%）に合併し、MPO-ANCA/p-ANCAは97.1%に認められた。GPAは、耳鼻咽喉症状が高率（86.7%）で、PR3-ANCA/c-ANCAは73.0%に陽性であった。CY療法は、MPAの22.2%、GPAの58.5%で併用され、両疾患とも比較的若い年代で用いられていた。GPAでは腎機能低下例では併用が減少していた。血漿交換は、MPAにおいては肺出血がみられる症例で、両疾患とも腎障害例に適応される傾向にあった。本研究は、ANCA関連血管炎患者の臨床像と治療選択の実態の一部を明らかにした。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。